

## 【日程】

- ①2020 年春 中止
- ②2020 年秋 9 月 26 日 (土)

## 【参加者】

## ■OB

- (15 期) 奥名正啓
- (19 期) 梶 典雅
- (20 期) 久富象二
- (22 期) 黒崎敏男

## ■現役 参加なし

## 【1】険しいアプローチ

高桑碑を過ぎた 2 番目の沢は排水管に詰まっていた岩石を工事で排出したらしく、以前のようなダム状で水がたまっていた状態から改善されていた。

例によって、つり橋手前の 500m くらいの間は足元が悪く、草に隠れて見えないが切れ落ちて数十 m 下まで見える場所もあり慎重に歩行する。

難所のへつりは水量計の手前までもがけ状になってしまっていたが何とか通過はできた。しかし、丸太が渡されているへつりについては最後の丸太が通過できるか不明だったため一旦引き返し、う回路の尾根越えの道を進むこととした。

この道も暫くぶりのため決して歩きやすい状態ではなかったが特に危険はなかった。

全体でダムから 3 時間を要し、過去最長であった。全員疲労困憊した様子でしばらく会話もなかった。ゆっくり歩いたわけではなく、慎重に歩まざるを得なかったからであるが、秋の場合はこれからも同様のことを覚悟する必要がある。



## 【2】小屋の状態

周りは草ぼうぼうではあったが、外部内部とも特に目に付く異常はなく、今のところ安全性に問題は無いと見られた。数年前に構造補強しているためあと 10 年程度の耐久性はありそうな感触。

## 【3】河原の草刈り

ここ最近、川原で小屋掛けをして過ごしておられた方々がまったく入山していないため、すすきのブッシュがひどく、へつり部分から小屋までは改めて草刈りを行う。

## 【4】帰路

草刈り時に状況を観察し、何とか通過できそうだったのでへつりに向かい、大岩も何とか乗り越えたものの丸太はつるつる滑るうえ、靴が水没してしまうなどあまりお勧めできない状態。

## 【5】来年春に向けて

小屋については仮に行うとしても昨年予定していた壁の補修や腐朽した床板の修理程度を実施すればよい程度と見られた。

アプローチ道は再度草刈りを行う必要がある。

高三郎登山道については、我々ができることは限られるが、残雪期を中心に多少の登山者が入山している模様で、その記録によると笹が復活して道がわかりづらくなっている個所があるので、希望者があり、可能であれば中間部の草刈りを行うくらいかと考える。ただし、2 泊を要する可能性があるため事前によく検討してみたい。

かつてを知る方にとっては想像しがたいかもしれないが、日帰り自体が厳しく、むしろ 1 泊して体力を温存したほうが安全かもしれない。



今回は 5 月連休明けを予定しておりますので、参加可能な方はご予定方、よろしくお願いたします。